

かほだより

29-8号
H29(2017).12.21



長野県伊那家畜保健衛生所
〒396-0026 伊那市西町 5764
Tel: 0265-72-2782, Fax: 0265-72-2765
E-mail: inakachiku@pref.nagano.lg.jp
URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/inakachiku/>
伊那諏訪家畜産物衛生指導協会
Tel&Fax: 0265-76-8086

酪農生産性
向上対策事業

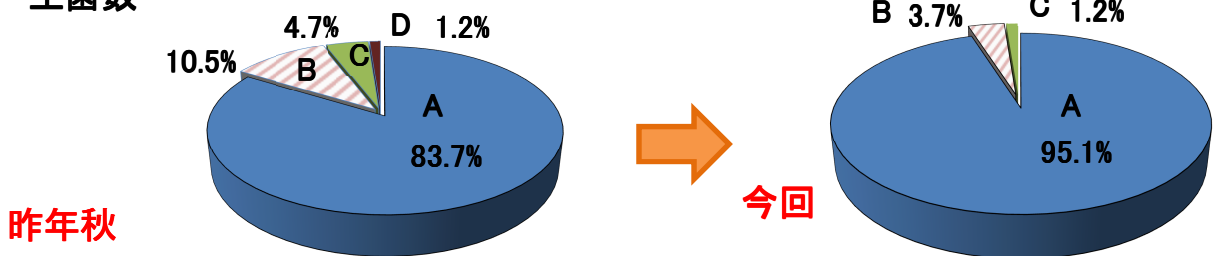
第2回バルク乳スクリーニング検査の集計 結果をお知らせします

～お送りした農場個々の結果と併せ、乳質向上の参考にしてください～

菌種別検査結果

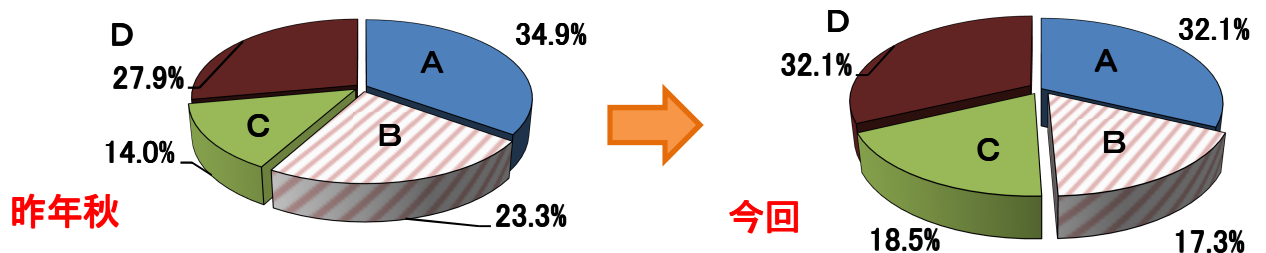
B～Dだった項目は、目標Aに近づくようチェックしてみましょう！
(評価) A:目標、B:やや多い、C:多い、D:非常に多い)

★ 生菌数



Aランクは約95%、B・Cランクは(3,000 CFU/mL以上)は約5.0%でした。
昨年同時期に比べ、Aランク農場が5戸増えました!!

★ 黄色ブドウ球菌 (SA)



Aランク(SA陰性)は約32%、B・C・Dランクは(SA陽性)は68%でした。
昨年同時期に比べ、Aランク(陰性)農場が4戸減りました。

～ SAは菌数の多少にかかわらず対策をとりましょう ～

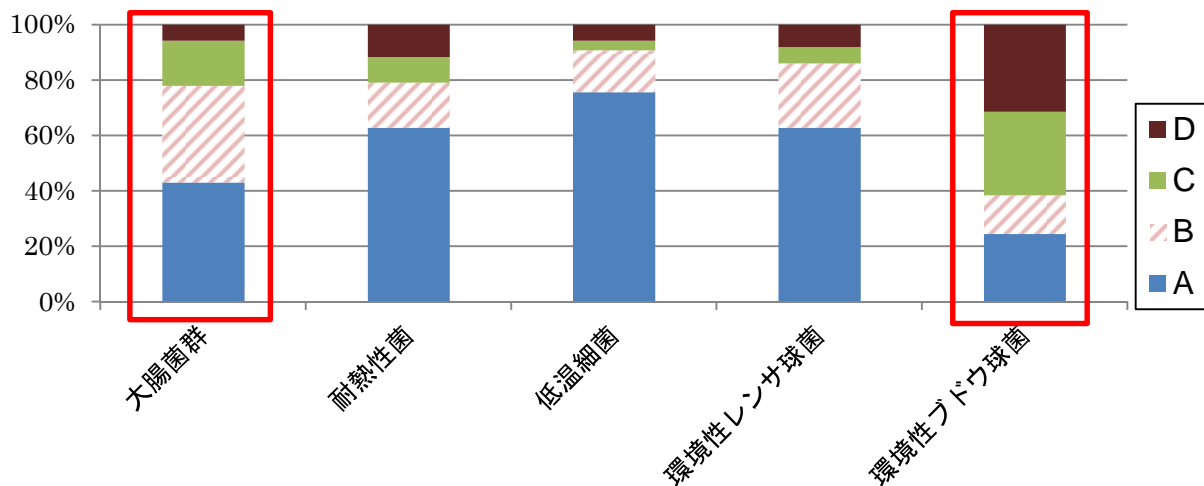
多くの農場でSAが検出されています。ご存知の通りSAは伝染力が強く、治療が困難で、体細胞数を増加させる主因となります。

- ◎ 対策
- ① 全頭の細菌検査による感染牛(感染分房)の特定
 - ② 当面の対応: 搾乳順序を最後にする、並び替えをする、搾乳衛生の再確認など
 - ③ 乾乳期治療、SA感染牛の淘汰など

※SA感染牛であっても、排菌していない時はSAが検出されない場合があります。
体細胞数が高い牛は感染の疑いがありますので、注意してください。

※SA感染牛の確認等を行いたい方は、家畜保健衛生所までご連絡ください。

★ 環境性の細菌



環境性の細菌が引き続き多数の農場で検出されています。

特に大腸菌群は約半数、環境性ブドウ球菌は約8割がB・C・Dランクでした。

～環境性細菌減少のために再確認！～

- 搾乳手順、乳頭の清拭方法を見直しましょう！！
- 搾乳機器の洗浄状態（洗浄水の温度）を確認しましょう！！

菌種別のポイントは・・・

<大腸菌、耐熱性菌が多い場合>

搾乳機器の洗浄殺菌に問題がありませんか？ 搾乳システムの洗浄状態やライナーゴムの劣化をチェックしましょう。大腸菌数が多く、耐熱性菌が少ない場合は、搾乳衛生の不良が考えられます。搾乳手順・手技を再度検討しましょう。

<低温細菌が多い場合>

バルク乳の冷却不良やバルクタンク・ミルクライン、残乳回収用スポンジの洗浄殺菌不足が考えられます。冷却温度、洗浄法を再確認しましょう。

<環境性ブドウ球菌、環境性レンサ球菌が多い場合>

環境性ブドウ球菌や環境性レンサ球菌が検出されても、牛がこれらの菌に感染しているとは限りません。これらの菌は環境にも存在しますので、菌が多数検出された場合は、環境や搾乳手技に問題があるかもしれません。環境中の菌が多ければ乳房炎にも罹りやすくなります。牛床の汚れや乾燥状態を確認し、乳房や乳頭の汚れを少なくしましょう。また搾乳手順や搾乳方法を見直し、とくに乳頭の清拭方法をチェックしましょう。

※なお、同時に実施した牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）、マイコプラズマの検査は管内81農場全て陰性でした。

問い合わせ・連絡先：伊那家畜保健衛生所保健衛生課 Tel:0265-72-2782, Fax:0265-72-2765

《海外では口蹄疫続発中！引き続き飼養衛生管理基準を守り、防疫対策に万全を期しましょう！》